

音楽コースで学ぶ高校生に向けた特別授業の実例報告 —アクティブ・ラーニング形式による進路学習と音楽大学で培える力を考察する—

Case report of special classes for high school students in music education tracks
～A discussion of skill development through music college-style active learning courses～

土居里江
Rie DOI

Abstract

This is a case report of special classes conducted as part of course learning for high school students in music education tracks. Recently, there has been a movement towards employing the “practical concert planning and practice” class format used at music colleges with high school students. This format is an example of “active learning,” which has been gaining attention as an educational method, and would allow high school students to gain practical experience, while also giving them a look at studying at a music college and possibly develop their interest in them. Based on the results of a questionnaire, we found that many high school students had a casual impression of musicians, that the classes represented their first opportunities for first-hand contact with them, and left them with a favorable impression. The classes surveyed covered not only those for high school students, but also those required for currently enrolled music college students. Furthermore, in addition to reporting the above results, we attempt to discuss social usefulness cultivated by students in music colleges.

1. はじめに

様々な高校より進路学習や職業理解の一環として、音楽大学での学びの内容を紹介する出張授業を依頼されることがある。その際には、依頼先高校の要望に合わせて、1～2時間程度、自分の専門分野にまつわる内容で授業を行うのだが、近年では「アクティブ・ラーニング形式で」という要望が加わることが増えてきた。音楽大学で学ぶことに興味を持たせ、将来、音楽大学に進学することをイメージできるように私が行った授業のうちの1つをここで報告する。この授業は、高校生に向けて行ったものではあるが、実際には音楽大学学生にとっても必要と思われる学びの内容が含まれている。この授業で取り上げている〈コンサートの企画・実践力〉は、将来、社会に出た時に、音楽関係の職業もしくは一般就職、どんな職業についての場合にとっても、社会で生きていく上での大きな力になると思われる。音楽大学で学ぶことによって、どのような生きる力が培われるのかということも含めて、この実例報告から考察してみたいと思う。

2. 高校生に向けた特別授業「素敵なコンサートの作り方」について

2-1. 概要

この授業を行った経緯についてであるが、くらしき作陽大学と岡山県立岡山城東高等学校音楽学類は、高大連携事業協定 (Sakuyo Joto Partnership Program 略してSJPP) を結び、このプログラムを選択した城東高校生は週1日、くらしき作陽大学に來学し授業を受けている。2013年からは「SJPP-PM (プロフェッショナルミュージック講座)」と題して、くらしき作陽大学音楽学部の教員が学内で1コマ (90分) 完結型の授業を週替わりで担当する、オムニバスの特別授業を実施しており、平成29年度4月20日 (木) は私が担当の回となり、「素敵なコンサートの作り方」というタイトルで授業を行った。その内容は、くらしき作陽大学音楽学部の学生が実際に授業や学内外の活動として行って

いる自主企画開催のコンサートの内容を紹介し、良いコンサートとして成功させるための企画力や実践方法をアクティブ・ラーニング形式でグループ学習し、最後にコンサートを全員で作りに上げる形で発表するという流れで授業を展開した。

2-2. 詳細

授業時間としては、15:05にスタートし16:35に終了する1時間半の授業であった。

参加者は、岡山県立城東高等学校音楽学類でSJPPプログラムに申し込んでいる高校生16名（申し込み者全18名中、その日は2名欠席）で、専攻楽器は、3年生の中ではピアノ4名、エレクトーン1名、フルート1名、ヴァイオリン1名、打楽器1名、そして2年生はピアノ4名、ヴァイオリン1、オーボエ1名、作曲（ピアノ）2名であった。

以下では、当日配布したレジュメ（図1）に沿って、授業内容を説明していきたい。

2017年4月20日 SJPP プロフェッショナルミュージック講座

「素敵なコンサートの作り方」

くらしき作陽大学 准教授（ピアノ）
土 居 里 江

1. 素敵なコンサート（魅力的、楽しいコンサート）とは？

- ☆演奏が上手い
- ☆プログラムが良い
- ☆MCが楽しい
 - ・トレスが素敵・・・非日常の時を演出
 - ・舞台マナーがスマート
 - ・チラシが素敵
 - ・ステージスタッフの対応が良い
 - ・・・etc.

お客様が非日常の時間を楽しめる会を目指す。
コンサートを成功させるためには、演奏の力だけではダメ！様々な知識とノウハウが必要です。

2. どうやってコンサートを作っているの？

～お客様が喜んでくださるコンサートの内容を考えてみよう！～

- ◎プログラム（演奏曲目）について
 - ・コンサートの目的に沿ったプログラムを考える
 - ・ターゲット（客層）に合うプログラムにする
(お客様の年齢や人数、地域性や開催時期を考えて、お客様が聴きたい＜喜ぶ＞内容を考える)
 - ・自分の良さをアピールできること
- ♪作陽生が行っているコンサートの例♪
 - 倉敷館コンサート
 - 目的：倉敷美観地区の観光スポットの活性化、地域の音楽文化振興に貢献
 - ※派遣依頼オーディションで演奏者を選出
 - ・・・(2曲演奏(クラシック+ポップス)+MCで審査)
 - 玉島交流センターヤングコンサート
 - 目的：地域の音楽文化振興に貢献
 - 学生が演奏家として必要なことを実践的に学べるように
 - ※音楽貢献実践研修者が出演
 - 企画、プログラミング、チラシやプログラム制作、会場スタッフ、全てを学生が行い、授業内で準備する

3. 《実践》コンサートプログラムを作ってみよう！

課題：15分間のミニコンサートをプログラミングする。

- ・タイトル（名曲コンサート、スプリングコンサート・・・etc）
- ・目的（名曲を親しんでもらう、管楽器の魅力を伝える、地域の音楽文化振興・・・etc.)
- ・客層（子ども向け・高齢者向け・子どもから大人まで・・・etc.)
- ・場所
- ・開催時期
- ・プログラム

4. 《実践》観客を惹きつけるMC力を磨こう！

- ・台本例を見本にMCの練習をしてみましょう。

5. 《実践》架空のコンサート開催！

図1. 当日配布したレジュメ

【1. 素敵なコンサート（魅力的、楽しいコンサート）とは？】の部分では、まず、魅力的なコンサートとはどのような要素が含まれているかということを確認した。様々な要素のうち、☆印の3項目＜演奏が上手い＞、＜プログラムが良い＞、＜MCが楽しい＞が特に重要と思われるが、演奏能力を高めていくことは、音楽学類の高校生にとっては日常的にレッスン等を通して研鑽を積んでいるであろうという前提で、今回はあえて＜演奏が上手い＞以外の☆印、＜プログラムが良い＞、＜MCが楽しい＞の2つに焦点を当てた。

【2. どうやってコンサートを作っているの？】では、現在、くらしき作陽大学音楽学部の学生達が行っている活動の例をあげ、もし音楽大学に進学した場合、近い将来に演奏会を企画実施することがあるという認識をもたせ、プログラムを作る時のポイントを伝えた。「お客様が喜んでくださるコンサートの内容にすること」を意識することが重要で、基本的なことではあるが経験の浅い若い世代にとっては忘れがちなポイントをまず押さえた。コンサートの目的に沿ったプログラムを考えること、お客様の年齢や人数、地域性や開催時期を考えて、客層に合うプログラムにすること、そして、それ

らを踏まえつつも、自分の演奏の持ち味や良さをアピールするプログラムを作ることができると理想的であるということを説明した。

【3. 《実践》コンサートプログラムを作ってみよう！】では、アクティブ・ラーニング形式での実践的な体験学習の時間にした。受講している高校生16名を6グループに分け（1グループ2～3名）、コンサートプログラムを作ってもらった。ただ、コンサートのプログラムと一言と言ってもその内容は多岐に渡るため、今回は「15分間のミニコンサートをプログラミングする。」という共通課題を出し、【2. どうやってコンサートを作っているの？】で学んだ内容を活かせるよう、次の5項目をあらかじめ各グループで決めてからプログラムを作るよう指示した。

- ・タイトル（名曲コンサート、スプリングコンサート …etc.）
- ・目的（名曲を親しんでもらう、管楽器の魅力を伝える、地域の音楽文化振興…etc.）
- ・客層（子ども向け・高齢者向け・子どもから大人まで…etc.）
- ・場所
- ・開催時期

15：30～15：45の約15分間をグループ学習の時間とし、15：45～15：55の10分間を発表の時間にあてた。表1に示した、予想以上に様々なヴァリエーションの演奏会が企画され、高校生の柔軟な発想に驚かされた。

表1. 各グループが企画した演奏会内容

グループ1	タイトル：ハッピーウェディング 目的：結婚式でのサプライズの余興 客層：友人の結婚式の参加者 場所：ウェディング会場 開催時期：6月 プログラム：1. パッヘルベル作曲 カノン（まず何も言わずに演奏を始める） 2. 洋楽 One Directionの曲（思い出の曲） 3. J・ポップス 嵐 <愛を叫べ>（ダンス付き）
グループ2	タイトル：みんなで歌って踊ろう 目的：名曲を親しんで楽しんでもらう。 客層：子ども 場所：田舎の幼稚園 開催時期：夏 プログラム：1. ディズニー映画「シンデレラ」より ビビディ・バビディ・ブー 2. 童謡 おばけなんてないさ 3. ジブリ映画「となりのトトロ」より さんぽ
グループ3	タイトル：クリスマス プチびっくり コンサート 目的：岡山イオンのイベントとして 客層：家族、若者、高校生 場所：岡山イオン内のイベントスペース 開催時期：12月20日 プログラム：1. クリスマスソング 赤い鼻のトナカイ 2. J.S.バッハ作曲 主よ人の望みの喜びよ 3. 洋楽 マライヤ・キャリー All I Want For Christmas is You 4. クリスマスソング あわてんぼうのサンタクロース
グループ4	タイトル：スマイルコンサート 目的：新しい友達と仲良くなろう 客層：子ども 場所：幼稚園 開催時期：春 プログラム：1. アンパンマンのうた 2. ジブリ映画「となりのトトロ」より さんぽ （出演者、お客様、皆で一緒に歌って踊る）

<p>グループ5</p>	<p>タイトル：Winter Concert 目的：色々な曲を知ってもらう 客層：子どもから大人まで 場所：岡山県立城東高等学校内の音楽ホール 開催時期：12月 プログラム：1. ショパン作曲 練習曲Op.25-11<木枯らし> 2. シベリウス作曲 もみの木Op.75No.5 3. 自編曲作品 クリスマスメドレー ※このグループのメンバーに作曲専攻の高校生が含まれている。</p>
<p>グループ6</p>	<p>タイトル：ピアノとヴァイオリンのコンサート 目的：楽器の魅力を知ってもらう 客層：子どもから大人まで 場所：岡山イオン内 未来ホール 開催時期：冬 プログラム：1. 情熱大陸 2. モンティ作曲 チャルダッシュ 3. 自編曲作品 クリスマスソングメドレー (出演者、お客様、皆と一緒に歌って踊る) ※グループのメンバーに作曲専攻の高校生が含まれている。</p>

【4. 《実践》観客を惹きつけるMC力を磨こう！】では、次の台本見本を配布し、先ほど考えたコンサートプログラムを、台本の<♪演奏者用>部分(図2.)を参考にして、実際にコンサートを進行するためのトーク(MC)の練習を行った。

<p>MC台本</p> <p>♪影アノ用 【開演前】 本日は「(コンサート名)」にご来場くださりまして、誠にありがとうございます。 開演に先立ちまして、お客様にお願ひ申し上げます。 会場内での飲食・喫煙は禁止されております。 飲食はロビーにて、喫煙は灰皿のあるところにてお願ひいたします。 また、許可のない「写真撮影」、「録音」、「録画」はご遠慮ください。 携帯電話をお持ちのお客様は、周りのお客様のご迷惑になりますので、あらかじめ電源をお切りくださいようお願いいたします。 間もなく開演いたします。お席におつきになり、お待ちください。</p> <p>【演奏後】 以上をもちまして、「(コンサート名)」を終演いたします。 本日はご来場いただきまして誠にありがとうございました。</p> <p>*****</p> <p>♪演奏者用</p> <p>みなさん、こんにちは。 本日は「(コンサート名)」にお越しくださりまして、ありがとうございます。</p> <p><A or B> A. 「(名前)」と申します。 B. 私達は「(ユニット名)」です。→(この後、ユニット名の説明を加えてもOK)</p> <p>これから15分間の間、お話しを交えながら「(例：ピアノの名曲の数々)」を お楽しみいただきたいと思います。どうぞよろしくお願ひいたします。</p> <p>まず始めに、「(曲名)」を演奏いたします。 この曲は「(どんな曲か?)」です。 それではどうぞお聴きください。</p> <p>続きまして「(曲名)」を演奏いたします。</p> <p>次の曲で最後となります。「(曲名)」です。 この曲は「(どんな曲?どんな思いで選んだ?)」</p>
--

図2. MC台本

基本的なことではあるが、ゆっくりはっきり笑顔で話すことを意識させ、笑顔で話すことで声のトーンが明るくなることも実際に体験してもらった。客層が子どもなのか、大人なのか、または高齢者なのか、その客層に合う声のトーンを選ぶことも重要であると説明した。

例えばグループ2の場合、次のような事例があった。

子ども対象のコンサートということで、元気いっぴいの明るい声で台本を元にアドリブも入れなが

らMCをしてくれた。そのMCの中で「今日はみんなで、歌って、踊って、楽しんでくださいね〜！」というセリフがあった。生き生きとした話しぶりでも良かったのだが、どの単語も同じ高さのトーンで話していたため、インパクトに欠けていた。MC役の高校生にどの言葉を一番伝えたいかを問いただけると、「楽しんで」という言葉を一番伝えたいということだったので、「歌って」、「踊って」、「楽しんで」の言葉のトーンを、「歌って」を少し低めのトーンから入り、「踊って」でトーンを少しあげ、「楽しんでくださいね〜！」でさらにトーンを高めにおもいきり言うことを実践してもらった。同じセリフのはずが声のトーンを変えるだけで、より子ども達を魅了する雰囲気を作れるのだということを全員が体感できた様子であった。

相手（聴衆）に受け入れてもらえるトークができると、演奏を聴いてもらいやすい状況につながることができ、結果的に良いコンサートになる可能性が上がる。演奏を専門とする人にとって演奏を磨くことは最重要課題であるが、演奏家として生きていく上では、演奏活動に付随していること、例えばMCなどの演奏以外の要素を磨くことも、演奏家としての活動を助けてくれる重要なツールになるということ、このMC練習から感じ取ってもらえたようであった。

【5.《実践》架空のコンサート開催！】では、全グループのコンサート案をグループ毎に実演発表してもらいたかったが、時間の都合上無理があったため、グループ2のメンバー3名をコンサートの出演者役とし、影アナ担当に他のグループの生徒2名を選出、残りのメンバーは聴衆役（子ども向けコンサートなので、子どもになった気持ちで参加）となり、全員でグループ2メンバーが企画した〈みんなで歌って踊ろう〉コンサートを開催した。（演奏については、部分的に歌うなどして対応した。）

2-3.アンケート結果

授業の最後にアンケートを実施した。結果は以下の通りである。

●SJPPプロフェッショナルミュージック講座 アンケート結果（回答数16名）

Q 1. あなたの学年について当てはまるものに○をつけてください。

高校2年	高校3年
7	9

Q 1-2 【3年生の方への質問】 昨年度もSJPP講座に参加しましたか？

はい	いいえ
9	0

Q 2. あなたの専門楽器は何ですか？

ピアノ	エレクトーン	ヴァイオリン	フルート	オーボエ	打楽器	作曲（ピアノ）
8	1	2	1	1	1	2

Q 3. 今回の講座の内容はいかがでしたか？当てはまるものに○をしてください。

満足	やや満足	ふつう	やや不満	不満
13	1	2	0	0

■理由（自由記述）

- ・とにかく楽しかった
- ・実際にやってみたりして、楽しかったです。
- ・コンサートをやる立場になって考えることができたから。
- ・実際に行ったりするのが楽しかったです。
- ・とても楽しかったです。

- ・実践的で楽しかったです。
- ・楽しくて、自分はこういったこと（体を動かしたり、みんなと笑ったり）をするのが好きだし、色々なことを知れたから。
- ・コンサートをするという事を考えることができて、とても楽しかったです。
- ・知らないことが分かったから。
- ・今まで考えたことのないことができたから。
- ・将来に役立つことがたくさん学べたから。
- ・コンサートの作り方について、楽しくたくさんのが学べたから。
- ・楽しくMCを学べたから。
- ・演奏以外にも観客を盛り上げる方法があるとわかったから。
- ・コンサートの作り方の工夫を学べ、実際にやってみることができたから。

Q 4. 印象に残ったこと、今後役立つと思ったことなど、感想があればお聞かせください。(自由記述)

- ・ピアノ以外のアナウンスの事も習うことができて、すごく楽しかった。高校の授業では体験できないこともできたので、すごく良かったです。
- ・人と話すときなどに今日やったMC術(?)が活用できると、楽しく話せそう。
- ・コンサートを開くことになった時に注意する点などを知れたので、今後役立つと思った。
- ・もし将来、自分がコンサートを開く側になった時に役立つと思った。
- ・影アナ、難しかったです!!とても勉強になりました。
- ・実際に自分たちで企画して、我ながら良いコンサートが今後開けそうな気がします。
- ・これから演奏家になって活動していく上で、なかなか学べないことが学べました!!!
- ・今日やったアナウンスのやり方とかは、自分が体を使って学んだこともあって、とても印象に残りました。
- ・構成やMCなども考えられた上でコンサートを行っているのだと知ることが出来てよかったです。
- ・演奏会をするにあたって気をつけなければいけないことが、とても役立つと思いました。中庭コンサート(城東高校で行っている)のMCなどに役立てられることもたくさんあったので、活用していきたいと思います。
- ・自分たちでどうやったら良いコンサートになるかを細かく考えることができてよかったです。これからコンサートに行ったときに気にしてみたり、将来、機会があれば、今回の事を活かしたいです。
- ・客層に合わせた司会のやり方が、それぞれのグループで出来ていたと思う。楽しい演奏会の作り方が細かく学べた。
- ・コンサートをやる上でどうすれば聴いている人に喜んでもらえるか考えて決めるのが楽しかった。
- ・コンサートを開くときに、季節や客層に合わせるなど、様々なことを考えながらするというシミュレーションができた。
- ・実際にコンサートをやってみたのが楽しかった。

Q 5. 《プロフェッショナルミュージック講座》について

この講座は、作陽の教員が「音楽のプロ」として「専門分野のこと」や「音楽人としての生き方、考え方」などを含めた内容でお伝えする、オムニバス形式(1回程度の授業を担当)のオリジナル授業です。今後、プロフェッショナルミュージック講座で受けてみたい内容や希望はありますか? 複数回答可。○をしてください。

教員や学生の演奏（曲の解説付き）	公開レッスン（作陽大学生がレッスン生）	
10	5	
公開レッスン（SJPP受講の城東生がレッスン生になる）	様々な授業見学	楽曲解説
5	5	5
作陽教員の音楽家としての人生経験談	特定の作曲家作品についての講義	
2	6	
その他（希望があれば自由に書いてください）		
<ul style="list-style-type: none"> ・体験型の授業（以前、藤花楽堂スタジオでレコーディングしたような） ・楽曲編集の授業や音声関係の授業 ・今日みたいな楽しい授業 ・打楽器講座 		

3. 考察、今後の課題と展望

今回、明るく積極的な高校生に出席してもらえたこともあって、活気ある授業となった。コンサートの作り方のみを説明するだけでなく、グループワークで実際に考え、行動し、体感する時間を持ったことで、参加者の心の中に今後何かに役立つ知識として、印象を残すことができたと思う。盛りだくさんの授業内容を詰め込みすぎたかと思われる反省点もあり、授業時間に制約もあったため、MCについては、本格的な指導というよりは、興味を啓発するための導入的なアドバイスに留めた。

この授業の内容は高校生に向けた進路学習というだけではなく、音楽大学学生の知っておきたい基礎知識としても役立てられるのではないかと思う。コンサートを企画、実施していく活動を積み重ねていく中で、音楽大学学生ならではのプレゼンテーション能力が養われていき、そのことはきっと、社会に出た時に活躍するための大きな力になると思われる。近年、音楽大学の進学者数減が著しいが、演奏を磨き研鑽を積みながらも、それと付随して様々な能力を培うことができるという音楽大学ならではの魅力を発見し、社会に貢献できる人材の育成に微力ながら少しでも役立てるよう今後も研究を進めていきたいと思う。

4. 謝辞

この研究ノートで取り上げた特別授業の内容を考えるにあたり、自身の演奏活動経験を元にしただけでなく、くらしき作陽大学音楽学部 学部長 竹内京子教授、同大学 演奏芸術センター センター長 菅付章宏教授の教育活動を、レジュメの【2. どうやってコンサートを作っているの?】で、学生達の演奏活動の例として紹介させていただいた。また、MCやプレゼンテーションについての知識は、私が現在学んでいるアナウンススクール主宰の上村明子氏（株式会社ASSOコンサルティングチーム代表取締役社長、KSB瀬戸内海放送アナウンススクール講師）にご指導いただいた内容が反映されている。そして、このSJPPプロフェッショナルミュージック講座を中心になって企画実施され、特別授業の機会を与えてくださいました くらしき作陽大学音楽学部音楽学科長 新名俊樹准教授、諸先生方に心よりお礼申し上げます。

